C.L. information

Vol.30 2013年11月

特　集

- 今注意すべき感染症
- 害虫紹介
- 食中毒情報

株式会社コントロール・ラボ

感染症について

秋から冬にかけては、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症が流行し始める時期です。正しい知識を身に付け、感染を防止するためにも、今回の C.L.infomation では、これから流行する、もしくは現在流行している感染症について特集させていただきます。

代表的な感染症の種類

インフルエンザ

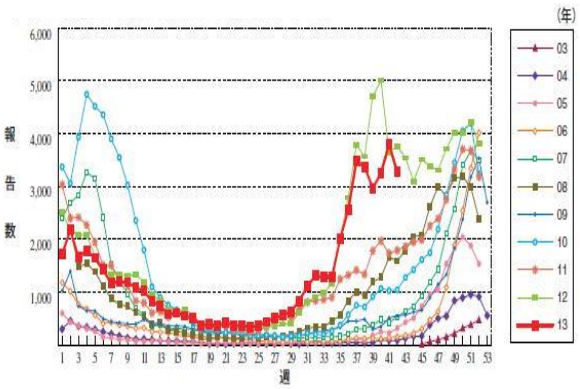
インフルエンザは、ウイルスがのどや気管支、肺で感染・増殖することによって発症する病気で、主に季節性インフルエンザと新型インフルエンザに分かれます。季節性のインフルエンザは、二つの A 型インフルエンザと B 型インフルエンザの 3 つのことを言います。季節性インフルエンザは主に冬場に流行していましたが、それに対し新型インフルエンザは夏場にも流行することがあります。症状は普通の風邪よりも急激に発症し、重いのが特徴です。感染すると、1～5 日の潜伏期間の後、38℃以上の高熱や筋肉痛などの全身症状が現れます。

ノロウイルス感染症

ノロウイルスは、100 個程度という微量のウイルスでも感染が成立するという非常に感染力が強い特徴を持っています。ノロウイルスが体内に入っても、症状が出ていない場合もあり、このような人は無症候性キャリアと言います。しかし症状が見られなくてもウイルスは体内に存在するため、感染を広めてしまう可能性があります。ノロウイルスの症状が治まった後でも 1～2 週間、長い場合では 1 ヶ月程度ウイルスの排泄が続くこともあります。

RS ウイルス感染症

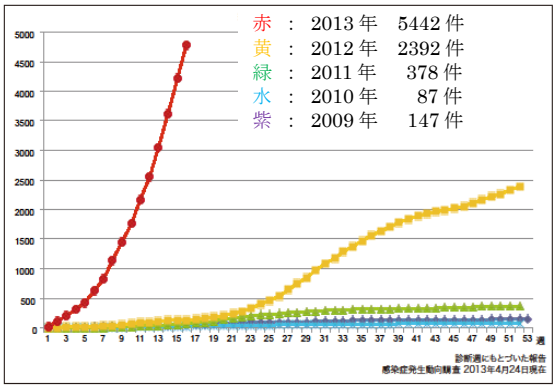
RS ウイルス感染症は、RS ウイルスの感染による呼吸器の感染症です。通常、鼻水、咳、発熱などのかぜのような症状があり、多くの場合は 1～2 週間で治まります。しかし、生後 1 年以内の乳児や免疫が低下した人では、気管支炎や肺炎、上気道炎など重症化するケースもあります。RS ウイルス感染症は、例年、冬にピークを迎え、夏は感染者数が少ない状態が続いていましたが、2011 年以降、7 月頃から報告数の増加傾向がみられています。今年も 7 月頃から徐々に増加傾向が見られ、依然感染者数が多い状態が続いています。



『IDWR-感染症発生動向調査より』

風疹

風疹は、日本では「三日はしか」とも言われており、風疹ウイルスが原因となるウイルス性疾患です。日本での風疹は 1994 年以降、大きな流行が発生していませんでしたが、昨年の春先から風疹の感染者数の報告が徐々に増加し、今年になってさらに感染が拡大しています。風疹の特徴的な症状としては、全身の皮膚に現れる赤く小さな発疹、リンパ節の腫れ、発熱などがあり、発疹は 1 ヶ月程度続きます。感染者は、男性では 20 代から 40 代、女性では 20 代に多い傾向があります。風疹で最も注意すべき点は、妊娠前半期の妊婦が感染した場合に胎児に先天性心疾患や難聴など先天疾患が生じる危険性があるため、妊娠を希望する女性は特に注意が必要です。



『IDWR-感染症発生動向調査より』

予防と対策

手洗い・うがいの実施

手洗いやうがいは、多くの感染症の予防の基本になります。手洗いは、手指に付着したウイルスや細菌を物理的に除去するのに有効な方法です。石鹸を使い、流水で十分に手を洗うようにしてください。うがいは、口腔の粘膜にウイルスが接触する危険性を減らすのに有効です。外出先から戻った後、トイレの後、調理・食事の前など、こまめに手洗い・うがいをする習慣をつけましょう。

マスクの着用

インフルエンザや RS ウイルス感染症は、くしゃみや咳などを介して空中に飛び散ったウイルスを吸い込む事で感染が起こります。既に感染している人では、マスクを着用する事で周りの人に感染を拡げるリスクを減らすことができますし、健康な人の場合では、ウイルスを吸い込んでしまうリスクを抑えることができます。マスクは使い捨てのものが望ましいです。

湿度管理・換気

乾燥した環境ではウイルスが空気中に漂いやすく、それに加えて、乾燥が続くとのどや気管の粘膜の防御機能が低下するため、感染のリスクが高まる可能性があります。室内では加湿器などを使用して 50～60%の湿度を保つと効果的です。また、冬場は暖房機具の使用等の理由から換気が疎かになり、室内の空気が籠りがちになります。室内のウイルスを外に出すと共に、新鮮な外気を取り入れるためにも定期的に換気を行うようにしましょう。

抵抗力を高める

十分な栄養が取れていない時や疲労が溜まっている時、睡眠不足の時は、体の抵抗力が低下しています。抵抗力が低下していると感染する危険性も高く、また感染した場合にも症状が重くなりやすいです。感染症が流行し始めたら、人混みへの外出は極力控えましょう。また、体の抵抗力を高めるためにも、無理の無い適度な運動をしたり、十分な休養を取ったり、バランスの良い食生活を心掛けたりと、普段の生活を見直してみてください。

ワクチンについて

今回紹介した感染症の中で、インフルエンザと風疹にはワクチンが開発されています。あらかじめワクチンを接種しておくことにより、感染しにくくしたり、感染した場合でも症状を和らげることができます。

	接種時期と回数	詳細
インフルエンザ	13 歳以上は通常 1 回接種ですが、2 回接種することで高い免疫効果が持続します。2 回接種の場合は、2～4 週間程度間隔を空けます。流行前の 10、11 月に接種が効果的です。	新型インフルエンザだけに効果がある 1 価ワクチンと、新型と季節性インフルエンザの両方に効果がある 3 価ワクチンがあります。毎年ワクチンを接種する必要があります。
風疹	2 回接種する必要があります。風疹のワクチンを受けていない、もしくは 1 回しか接種していない方は、男女共に早めに接種する事が勧められています。	妊娠中や妊娠の可能性がある女性は接種ができません。接種を受けたかどうかわからない方は、病院で抗体検査を受ける事で風疹に対する免疫を確認できます。

害虫紹介

チャバネゴキブリ

時として大発生するゴキブリといえば、チャバネゴキブリです。アフリカ原産と考えられている南方系の種類であるため、寒さには弱いです。現在では、空調機などの発達で室内温度が高く保たれるようになった結果、飲食店や工場、一般住宅などあらゆる場所に生息範囲を拡大しています。

生態

成虫は全身が黄褐色で、体長 1.1～1.5 ㎝と小型の種類で飛翔はできません。卵から成虫まで 2 ヶ月ほどで成長し、生涯に 3～7 回産卵します。卵は卵鞘と呼ばれるカプセルの中に 30～40 個詰まっています。他のゴキブリ類より早く成長できるため、数カ月で大幅に数を増やすことがあります。低温には弱く、室外では越冬できません。ただし、年間を通して暖かい室内や、熱源となる機械の周辺では冬期においても増殖します。

被害

不快感を与えるだけでなく、異物混入の原因となります。また、食品を加害するといった直接的な被害だけでなく、病原菌を運搬することで食中毒の間接的な原因になります。糞、死骸などがアレルゲンになることもあり、特有の嫌な臭いを発生させます。小さな隙間を好むため、機械類に侵入し、漏電や発火の原因となることもあります。

チャバネゴキブリ成虫
Blattella germanica

対策

予防としては、エサとなる残飯などを片づけることが最重要です。侵入経路のひとつとして、荷物に付着して搬入される場合があるため、ダンボールなどの室内への持ち込みは極力避けます。

弊社では、モニタリング調査を重視し、生息場所へのピンポイント且つ、薬剤の適宜使用により、省薬剤（レスケミカル）施工を実現します。また、駆除後も定期的に訪問点検することで、再定着を確実に予防します。

チャバネゴキブリ幼虫

食中毒情報

今月は、カンピロバクターによる食中毒が多く発生していました。鶏料理を原因とすることが多いですが、鶏刺しなどの生食だけでなく、焼き鳥などの加熱済み食品を原因とすることも多々あります。これは、カンピロバクター食中毒が 100 個程度の少量の菌数でも発症する特徴があり、生肉から他の食品への交差汚染に起因します。まな板や包丁などの調理器具は、原材料と調理済み食品で別々の物を使うようにする、原材料を扱った手で調理済み食品を触らないなど、交差汚染防止のための食品の取扱いが出来ているか、確認してみてください。

全国食中毒発生状況
（10/15～11/14 新聞発表分）

原因物質	事例	感染者数
カンピロバクター	11	201
寄生虫	5	9
ノロウイルス	4	132
サルモネラ	2	59
不明・その他	6	85

株式会社コントロール・ラボ

本　　社　〒651-1211 神戸市北区小倉台7-1-7　TEL: 078-582-3575 FAX: 078-582-3576
阪神事業部　〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町2-4-15　TEL: 078-858-6801 FAX: 078-858-6802
福岡営業所　〒816-0921 福岡県大野城市仲畑1-6-15-A棟3　TEL: 092-575-0630 FAX: 092-586-6321

フリーダイヤル
0120-540-643
URL http://controllabo.co.jp

Control Labo. 株式会社コントロール・ラボ
MITEC エムテック衛生検査所